

【初年度実証成果】(株)果実堂（熊本県益城町）

実証課題名：パイプハウス土耕栽培葉菜類のIoT化・機械化によるスマート化実証

経営概要：ベビーリーフ：70ha うち実証面積：1ha
従業員：150名（グループ合計・パート社員含む）

導入技術

- ①自動灌水システム、②トラクター搭載型播種機、
③複合環境制御装置「YoshiMax」、④生産管理システム「豊菜プランナー」



①自動灌水システム



②トラクター播種機



③YoshiMax



④豊菜プランナー

目標

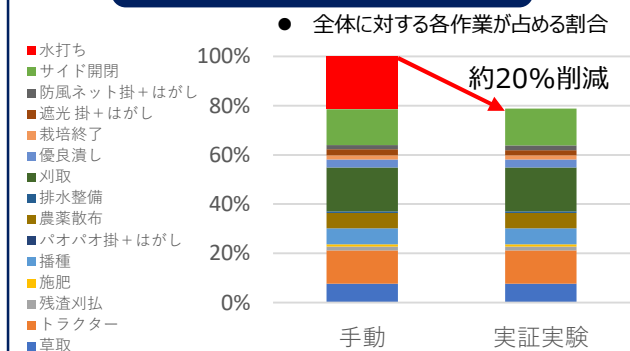
- 灌水自動化、換気・カーテン開閉自動化による1作当たりの生産コスト25%削減
○適時適水およびハウス内環境最適化による安定した収量の確保

1 初年度の実証成果の概要

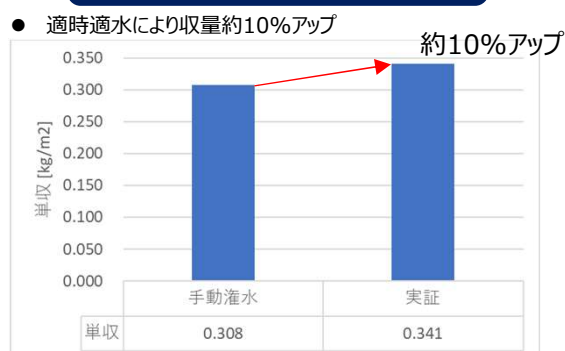
- 灌水システム（半自動化：システムから灌水提案の通知）、トラクター播種機の導入により、労働時間が約23%削減（33h/10a・作→25.4h/10a・作）
○灌水システムの導入による適時適水の効果で収量約10%アップ

2 導入技術の効果

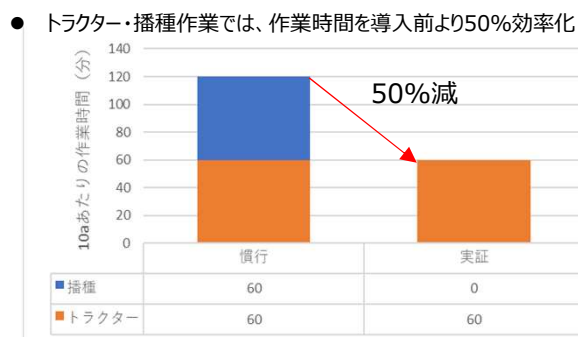
灌水システム（半自動化）



灌水システム（半自動化）



トラクター播種機



全体の労働時間

- 灌水システム、トラクター播種機の導入により、労働時間が約23%削減（33h/10a・作→25.4h/10a・作）

項目	導入前	導入後	差(①-②)
水打ち	6.6時間	0時間	△6.6時間
トラクター・播種	2.0時間	1.0時間	△1.0時間
複合環境制御装置			実証中
その他	24.4時間	24.4時間	-
全体	33時間	25.4時間	△7.6時間

3 今後の課題・展望

- 灌水の全自動化により、労働時間削減と収量アップの目標達成を目指す。
○ トラクター播種機の作業性を更によくするため、播種機アタッチメントの改良を行う。
○ 複合環境制御装置とセンシングデータの活用による高度な栽培管理により、目標とする安定した収量の確保を目指す。

問い合わせ先

(株)果実堂 mail: info_sa@kajitsudo.co.jp TEL: 096-289-8883